慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

-	itory of Academic resouces					
Title	中国北京市でのPM2.5の酸性度(pH)の実態と酸性化プロセスの解明					
Sub Title	Measurement of acidity of PM2.5 in Beijing, China and the production process of acidic particle					
Author	田中, 茂(Tanaka, Shigeru)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2018					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)					
JaLC DOI						
Abstract	 近年,中国北京市で数百µg/m3を超える高濃度なPM2.5大気汚染の問題が報道され、 世界的な関心を集めた。PM2.5粒子の主たる化学成分は、大気へ放出されたSO2,NOX,HNO3, HCI等の大気汚染ガスとアンモニアガスとの反応で生成された(NH4)2SO4,NH4NO3, NH4CI等のアンモニウム塩である。アンモニウム塩は、 WHOにより発癌性物質に認定された有害なディーゼル排気粒子と異なり、 それ自身は有害物質ではない。しかし、潮解性であるため、高湿度において、 その表面は水で覆われ、表面の水に大気中酸性ガスが吸収され、 粒径サブµm粒子表面の水分量は極めて微量であることから、粒子表面のpHは、 -2~2程度と極めて強酸性であることが報告されている。従って、 PM2.5の人体の健康へのリスク評価を行う上で必要不可欠である。 北京市清華大学において、2017年1月~12月の期間中、大気中PM2.5濃度とPM2.5中[H+] 濃度の測定を1日毎継続的に行った。 マの結果、PM2.5歳度の年平均値は56.1±51.8µg/m3(n=313)であり、 中国の環境基準の年平均値530g/m3を大幅に超えていた。また、 環境基準の日平均値530g/m3を大幅に超えていた。また、 環境基準の日平均値530g/m3を大幅に超えていた。また、 環境基準の日平均値530g/m3を大幅に超えていた。また、 環境基準の日平均値530g/m3を放着に置えていた。また、 環境基準のの手均値でかり、 PM2.5や[H+] 濃度の年平均値は56.1±51.8µg/m3(n=313)であり、1月、2月、 3月の冬季と7月の夏季に10 nmol/m3を超える高濃度が観測された。 2017年1月及び7月においてPM2.5濃度が高く、 相対湿度が60%以上となるPM2.5転料を対象として、PM2.5や[H+]と化学イオン濃度の測定結果か SPM2.5や[H+]濃度は8.0~32.9 nmol/m3であった。その結果、PM2.5粒子表面の水分中の [H+] 濃度は0.33~1.29 nml/m3であった。その結果、PM2.5粒子表面の水分中の [H+] 濃度は0.33~1.29 nml/m3であった。その結果、PM2.5 is essential for investigation of risk to human health. In this study, the observation of PM2.5 is essential for investigation of risk to human health. In this study, the observation of PM2.5 is essential for investigation of risk to human health. In this study, the observation of PM2.5 was carried out in Beijing, China to measure chemical ions and acidity in PM2.5 from January to December 2017. PM2.5 vas continuously collected every day, by using 7 days sampler with the parallel plate type diffusion scrubber for removal of NH3. PM2.5 samples were extracted by ion exchanged water, and then the acidity (pH) of PM2.5 solution was measured by micro pH sensor and chemical ions such as N+, NH4+, K+, Mg2+, Ca2+, F-, HCO3-, CL-, NO3- and SO42- were measured by ion chromatograph. Water content on PM2.5 is necessary to calculate pH of surface on PM2.5 was highly acidic. 					
Notes						
Genre	Research Paper					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170013					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	理工学部	職名	教授	- 補助額	300(A)千円		
	氏名	田中 茂	氏名(英語)	Shigeru Tanaka				
研究課題(日本語)								
中国北京市での PM2.5 の酸性度 (pH)の実態と酸性化プロセスの解明								
研究課題(英訳)								
Measurement of acidity of PM2.5 in Beijing, China and the production process of acidic particle								
1. 研究成果実績の概要								
近年、中国北京市で数百 µg/m3 を超える高濃度な PM2.5 大気汚染の問題が報道され、世界的な関心を集めた。 PM2.5 粒子の主た								
る化学成分は、大気へ放出された SO2、NOX、HNO3、HCI等の大気汚染ガスとアンモニアガスとの反応で生成された(NH4)2SO4、								
		ウム塩である。アンモニウム均						
		はない。しかし、潮解性であるた						
スが吸収され、粒径サブμm粒子表面の水分量は極めて微量であることから、粒子表面のpHは、-2~2程度と極めて強酸性である								
ことが報告されている。従って、PM2.5の酸性度(pH)をモニタリングすることは、PM2.5の人体の健康へのリスク評価を行う上で必要不可欠である。								
	学において、20	17 年 1 月~12 月の期間中、プ	大気中 PM2 5 濃	唐とPM25 中[H+] 濃度の測	定を1日毎継続	前に行った。		
		均値は 56.1±51.8 µ g/m3(n						
		直 75 μg/m3 を超えた日は 73						
PM2.5 中[H+] 濃度の年平均値は 3.02±5.44nmol/m3(n = 187)であり、1 月、2 月、3 月の冬季と7 月の夏季に 10 nmol / m3を超える								
高濃度が観測された。								
2017年1月及び7月において PM2.5 濃度が高く、相対湿度が 60%以上となる PM2.5 試料を対象として、 PM2.5 中[H+]と化学イオン								
濃度の測定結果から PM2.5 粒子表面の水分量と PM2.5 中[H+]濃度を算出した結果、水分量は 14.8~35.9 µg/m3 であり、 PM2.5 中[H-]濃度を算出した結果、水分量は 14.8~35.9 µg/m3 であり、 PM2.5 中[H-]								
+]濃度は 8.0~32.9 nmol/m3 であった。その結果、PM2.5 粒子表面の水分中の [H+] 濃度は 0.33~1.29 mol/L となり、PM2.5 粒子表面								
の pH は - 0.11 ~ 0.48 と極めて強酸性であることが判った。								
2. 研究成果実績の概要(英訳)								
Recent years, many studies point out that the fine particles matter less than 2.5 µm has more damage to human body. Especially, the								
measurement of acidity in PM2.5 is essential for investigation of risk to human health. In this study, the observation of PM2.5 was								
carried out in Beijing, China to measure chemical ions and acidity in PM2.5 from January to December 2017. PM2.5 was continuously collected every day, by using 7 days sampler with the parallel plate type diffusion scrubber for removal of NH3. PM2.5 samples were								
extracted by ion exchanged water, and then the acidity (pH) of PM2.5 solution was measured by micro pH sensor and chemical ions								
such as Na+, NH4+, K+, Mg2+, Ca2+, F-, HCO3-, Cl-, NO3- and SO42- were measured by ion chromatograph.								
Water content on PM2.5 is necessary to calculate pH of surface on PM2.5 by H+ concentration of PM2.5. According to the method								
estimating water content of PM2.5 from the concentration of deliquescent materials such as (NH4)2SO4, NH4NO3 and NaCl, water								
contents of PM2.5 collected in Beijing, January and July, 2017 were ranged 14.8 \sim 35.9 μ g/m. As the results, pH of surface on PM2.5								
were ranged – 0.11 \sim 0.48. It was found that pH of surface on PM2.5 was highly acidic.								
3.本研究課題に関する発表								
発表者 (著者・	f氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	()	発表学術誌名 蒈書発行所・講演学会)	学術誌発 (著書発行年月	行年月 」・講演年月)		
田中茂		中国北京市における PM2.5 料	位子の 第 58 [回大気環境学会年会·特別	2017 年 9 月			
		酸性度の測定と強酸性粒子の	の生成集会					
		プロセス						